

2 - 8 拓洋による日本海中部地震震源域調査

Seabottom Survey in “1983 Japan Sea Earthquake Hypocentral Region”
by the Survey Vessel “TAKUYO”

海上保安庁 水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部では、昭和 59 年 7～8 月に測量船「拓洋」により日本海中部地震震源域について海底地形・地質構造調査を実施した。調査海域は、第 1 図に示す艫作埼沖の海域で、昭和 58 年日本海中部地震発生後に測量船「昭洋」が調査¹⁾した区域の一部である。今回の調査では、日本海中部地震の震源を横切る東西測線においてマルチチャンネル反射法音波探査を実施し、現在データ処理が進められている。ここでは、ナローマルチビーム測深機により明らかとなった詳細な海底地形について速報する。

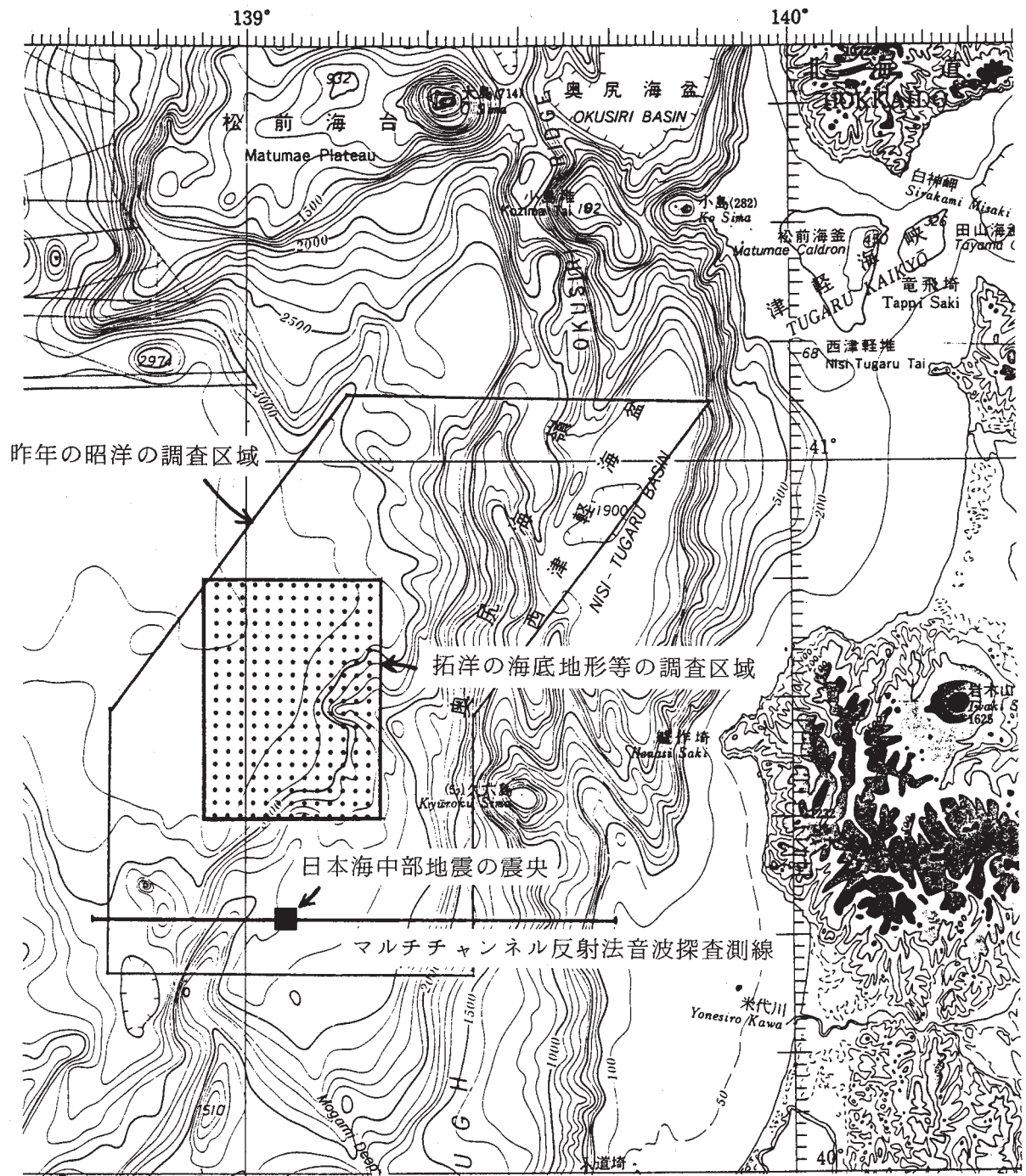
第 2 図は、ナローマルチビーム測深機による測深データから船上で作成した海底地形図である。等深線間隔は 10m で、原図は 4 万分の 1 のモザイク地形図である。

図の南東部から中央にかけて、日本海盆平坦面に続く深海扇状地が認められる。これは、佐渡・奥尻両海嶺にはさまれた最上トラフを經由して供給された堆積物によって形成されたものと考えられる。

図の中央付近にいくつかの小海丘が点在している。これらの海丘は比高約 50m、麓径 1 km 弱の小さなもので、ナローマルチビーム測深機によってはじめてその形状が明らかとなった地形である。

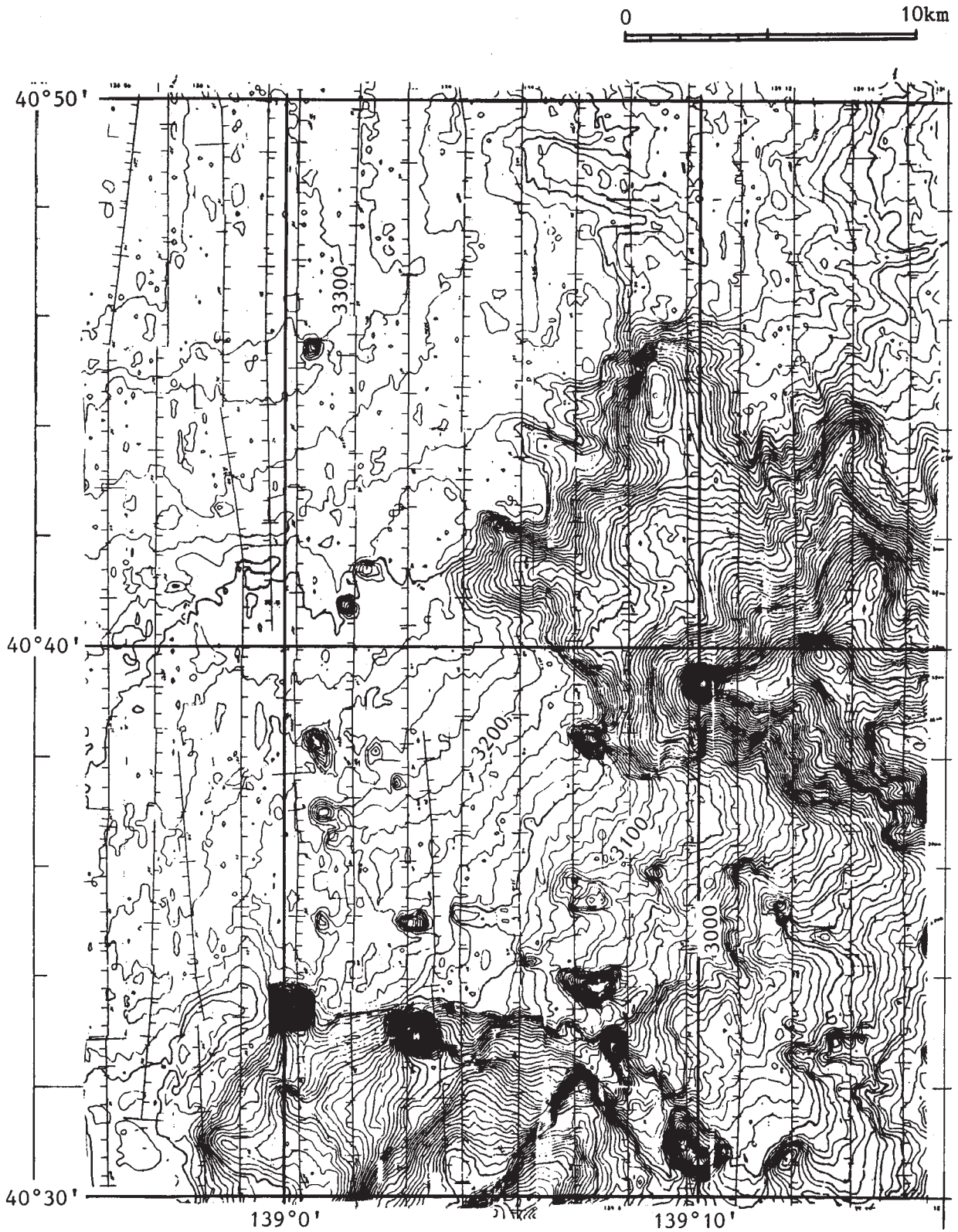
参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：日本海中部地震震源域調査結果，連絡会報，31（1984），104 - 107



第1図 調査区域図 (海底地形図No. 6312 による)

Fig. 1 Surveyed area on the bathymetric chart No. 6312.



第2図 ナローマルチビーム測深機によるモザイク海底地形図，等深線間隔10m

Fig. 2 Mosaic bathymetric chart by the multi-beam echo sounder. Contour interval 10 m.